

県立博物館・美術館の今後の在り方について

- 1 県立博物館の沿革 議事資料 1-3
 - (1) 博物館設置構想と整備
 - (2) これまでの博物館の見直し経緯
 - (3) 今後の在り方検討の視点

- 2 博物館をめぐる現状と課題 議事資料 1-4
 - (1) 博物館をとりまく社会状況の変化
 - (2) 県内博物館の現状と県立博物館の現状と課題
 - ① 県内博物館の現状
 - ② 博物館資料の集約と保管
 - ③ 調査・研究
 - ④ 展示
 - ⑤ 教育普及

- 3 **これからの県立博物館** 2 0
 - (1) **県立博物館の役割** 2 0
 - (2) **博物館機能の強化・集約** 2 0
 - ① **博物館資料の収集と保管** 2 0
 - ② **調査・研究** 2 1
 - ③ **展示** 2 2
 - ④ **教育普及** 2 3
 - (3) **博物館在り方検討の方向性** 2 4

3 これからの県立博物館

(1) 県立博物館の役割

県立博物館では、博物館運営上の評価・点検を行うに際し、指標となる役割について、平成16年度に全館で協議の上、下記のとおり設定しました。

千葉県立博物館は、千葉県の自然・文化を守り、伝え、新たな知見を創造し、情報を発信します。この活動をとおして人材を育成し、県民の学習および地域づくりを支援します。

- ア 調査・研究を基に、新たな資料の価値を発見し、千葉県の自然・文化に関する資料を収集・保存して、後世に伝えます。
- イ 資料や調査・研究の成果を知的資産として蓄積し、その情報を発信することによって県民と共有し、文化および科学の進展へ寄与します。
- ウ 県民に専門性や体験を重視した生涯学習の機会を提供し、自然や文化を愛する人材を育成します。
- エ 博物館は地域の核となって、まちづくり、地域文化振興、地域おこし、といった地域づくりを支援します。

※ 四角囲みは、全施設に共通することがらを、ア～エまでに博物館機能別に設定した役割を示しています。

県立博物館の現状と課題を踏まえると、今後の在り方検討においては、さらに以下の2つの役割を加えることが必要です。

- オ 県の良さ・魅力を伝える、県民の郷土への愛着と誇りを育みます。
- カ 全県域を対象とした資料の収集、展示、教育普及、情報発信を進め、市町村立博物館等を支援します。

これからの県立博物館は、県域を俯瞰した総合性の視点で、様々な事業を通じて県民の郷土意識の醸成、また、県内各地に見られる文化・歴史・自然・産業等に係る多様な資料については、地元での活用が進むよう関係機関と一層の連携を図ることが望まれます。

(2) 博物館機能の強化・集約

① 博物館資料の収集と保管

これからの県立博物館は、県域を俯瞰した博物館資料の収集・保管について、収蔵資料の一元管理を進める必要があります。それにより収蔵スペースの有効活用、設備管理費の節減を図れるメリットがあります。一方で、文化財害虫^{※4}

※4 文化財や博物館資料に、食害や糞尿で悪影響を及ぼすヒメマルカツオブシムシ、タバコシバムシ、シロアリ、ゴキブリ、シミなどの昆虫

等による一度に破損・劣化を招く危険性が高まるデメリットも想定されるため、「総合的有害生物管理」(IPM=Integrated Pest Management)という、できるだけ化学薬剤を使用せず人的な管理により、被害を最小限にとどめようとする文化財害虫の管理システムを構築が必要です。

また、千葉県博物館協会が構築している「博物館資料救済ネットワーク」(p. 12 参照)と連携する中で、拠点施設としての県立博物館の役割が果たせるよう、資料管理や保存手法等について情報共有が必要です。博物館資料の救済については、現在、文化庁や国立博物館においても、非常時の文化財や博物館資料の救済体系について検討が進められています。検討では、博物館同士の施設連携に加え、知的財産等の管理を行う類似の機能を有する博物館(Museum)、図書館(Library)、文書館(Archives)等を含めた総合的なものであり、今後の MLA 連携の強化の検討が求められています。特に歴史系資料では、博物館が古文書、古地図、古写真等、図書館では文献、郷土誌、文書館では県史編さんで収集した歴史資料をそれぞれ保管しており、本県の歴史研究に対するレファレンスについては、資料の一元化した管理体制や情報共有によるサービスの向上が望まれます。

② 調査・研究

博物館では、考古学・歴史学・民俗学等の人文科学、生物学・地学・植物学等の自然科学、絵画・彫刻等の美術学の専門職員が多数います。こうした博物館の強みである人的資源の活用、特に専門領域を超えた共同研究を充実させ、博物館の調査・研究機能を向上させることが必要です。

また、資料収集・保管と同様に、調査・研究においても、県域への波及や地域的な広がりをもったエリアを対象としたテーマ等を設定するなど、全県下を俯瞰した視点での取組みが必要です。その際には、関係する市町村立博物館や、市民参画型の調査・研究体制を構築するなど、県民協働の取組みも検討すべき課題です。

こうした取組みを進める一方で、博物館活動において必要である資料管理や展示手法等の技術的分野について、技術の継承とスキルアップも図るため、専門職員の集約化を検討することが望まれます。

これら調査・研究の成果の県民への還元については、これまで進めてきた企画展示やトピックス展示、講座・講演会の他に、インターネットを活用した公開も更に進める必要があります。誰もが容易にアクセスできるよう、今日まで蓄積してきた報告書や展示図録、論文等の電子化等進め、デジタルミュージアム、アーカイブスの一層の充実も期待されます(図 18)。



図 18 関宿城博物館のデジタルミュージアム（企画展図録の紹介）

③ 展示

常設展示では、県民の誇りとなる本県の魅力を伝え紹介する取り組みや、また、時事的話題や県民ニーズに即応した展示の充実が望まれます。そのためには、可変性が高く、柔軟性のある展示施設への改修も必要です。

本県の歴史に関する展示では、千葉県の良い、魅力を伝える展示の充実と併せて、県立博物館の総合センターである中央博物館の歴史系展示の強化が望まれます。これまで地域博物館で紹介してきた県内各地の多様で豊かな自然、そこに育まれてきた地域の歴史的・文化的特色についても、歴史系展示やデジタルミュージアム等での活用を検討することが必要です。

また、博物館資料は、展示という場で広く公開されるものですが、県立博物館が所蔵するコレクションを、市町村立施設に貸し出して公開する、または巡回展示を行うなど、更なる活用も、関係機関との連携協力の中で推進することが望ま

れます。さらに、県立博物館収蔵資料の中には、地域の指定文化財も多く含まれており、それらについては、保存措置を図りながら、活用という視点も加え、広くその価値を紹介する新たな取り組みも検討していくべきです。

施設外で行う山・川・海のフィールドミュージアムについては、地元の関係機関・市民団体の連携の下、実施地域の広がりや地域の実情にあった事業展開が進展するよう、見直しを進め、体制を整えることが必要です。学校や社会教育施設で行うオンデマンドの出前展示については、博物館資料のパッケージ化や学習キットの活用を図りながら、より多くの県民がサービスを楽しむよう充実が望まれます。

④ 教育普及

博物館の専門職員が調査・研究した成果を、県民へわかりやすく伝える方法に講座・講演会があります。調査・研究の内容によっては、高度に専門的な分野もありますが、職員自らが伝えることで、人的資源の可視化と活用を推進し、県民の学びと知的要求に応える取り組みとなります。こうした活動を継続することで、自然・文化・歴史等に関する様々な魅力を喚起させ、知の循環の創造につなげていく必要があります。

これまでも拡充を図ってきた参加・体験型事業は、引き続き充実を図りながら、人気の高い事業についても、年齢層に応じた参加者の期待や満足につながる改善が望まれます。また、時事的話題や県民ニーズに即応する情報等の提供についても、博物館以外の関係機関との連携の中で充実が図られることを期待します。

学校教育の支援については、博物館が保有する様々な資源と提供プログラムについて、学校教育関係者へ一層の周知を図る必要があります。その一例として、現在展開している「教員のための博物館の日」や教職員を対象とした研修会等において、博物館が持っている人材や資料、及びプログラム等の効果的な情報発信等の推進を期待します（図 19）。



図 19 「教員のための博物館の日」（左：中央博物館 右：現代産業科学館）

児童生徒の夏休みの自由研究課題に関する問い合わせ、一般の方から地域の歴史や植物・昆虫の問い合わせなどに対し、レスポンスよく応じるためには、専門職員である人的資源の可視化が有効です。また、県民の幅広い学びの要望に対して、様々な専門分野に横断的に対応できるような専門職員の集約化を検討するなど、レファレンスサービスの向上を推進する必要があります。

博物館資料の収集・保管で述べたように、MLA連携の推進も、本県の歴史研究に対するレファレンスサービスの向上に資するものです。博物館は、地域における文化・学術の核となりえる施設です。それは地域振興、観光振興にも資するものであり、自治体や関係機関との連携で、さらに強化・発展させていくことが可能です。あらゆる機会をとらえて、博物館から保有する資源や魅力の情報発信を進め連携強化を図っていくことが望まれます。

(3) 博物館在り方検討の方向性

県立博物館は、資料収集や展示、教育普及等の様々な活動を通じて、教育、学術、文化の発展に寄与してきました。これらの点において、地域史と特定テーマを扱う博物館は、その所期の設置目的を一定達成することができました。

現在、生涯学習社会の進展や、地域文化・科学に対する学習要求の多様化や、高度化した情報化社会、社会教育施設に寄せられる地域や観光振興への期待の高まりに適切に対応するため、施設総量の適正化（縮減）も踏まえ、これまでの県立博物館事業や施設の在り方を見直す必要があります。

今後の県立博物館の在り方については、以下の県立博物館の役割と機能等に照らして、関係機関とも協議を行いつつ、検討することを望みます。

<県立博物館の役割>

- ア 全県下を俯瞰した資料収集・保管、調査・研究、教育・普及等を行う。
- イ 県の魅力、県民の誇りとなるような文化・自然等の発信・紹介に努める。

<県立博物館の機能集約等>

- ウ 効率的かつ高度化した博物館資料の一元管理を進める。
- エ 地域史と特定テーマを扱う博物館は、長期的な視点で、地元での活用を含め、現状の県運営の在り方を見直す。